

施策番号 4-3	施 策 名 観光振興プロジェクト	観光振興プロジェクト	基本的方向	まちの観光拠点である新嵐山を活用し個性を活かした観光地域をつくる
			基本目標	ひとが集い、誰もが安心して暮らすことができる魅力的なまちづくり
	主 管 課 魅力創造課	魅力創造課	課長名 西田昌樹	内 線 233
	施 策 係 係課 施 策 係 係課			

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図			結果		
豊かな自然や地域のおもてなしを通じて、「茅室町の個性を体感できる場」をつくるとともに、地域資源を活用した観光まちづくりを推進し、まちのブランド力の戦略的な活用を図りながら、観光誘客を促進する		町民、観光客		・利用者数の増加 ・観光消費や物産購入につなげる			観光客の増による地域内経済の活性及び魅力ある地域内資源の再発見による郷土愛の醸成		
重要業績評価指標(KPI)	説明	単位	策定期(基準値)	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2024年度(目標)	
① 新嵐山スカイパーク利用者数	実績数(年間)	人	488,100	281,257	273,520	304,414	6,821	513,000	
②									
③									
評価指標 設定の考え方	年1%増加を目標とし、30年度から34年度までの5年間につき5%増で設定								

2. 施策の事業費

	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算	2023年度決算
施策事業費(千円)	111,026	109,826	117,676	82,141
人工数(業務量)	0.5176	0.5542	0.5103	

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2023年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input checked="" type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	新嵐山の休業による利用者数の減
②2024年度の目標値達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	新嵐山の再開が可能となれば目標の達成は可能である。
(2) 施策の成果評価に対する第2期茅室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業		②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	新嵐山スカイパーク運営支援事業
③事務事業全体の振り返り(総括)	観光ビジョンの策定、町観光・特産品普及など、新規事業等の実施をはじめ、コロナ後の順調な事業実施、推進をしている。 新嵐山スカイパークについては、令和5年10月に運営会社の経営破綻により営業を休止し、再生に取り組むための「あり方の骨格」を令和6年3月に策定している。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(総合戦略策定時との比較)

担当課評価	新嵐山の休業は町のさまざまな事業に大きな影響を及ぼしており、「計画策定時と比較して後退した」と評価した。		A	B	C	D	E
		進捗結果					○

A:実現した B:(総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C:(総合戦略策定時と比較して)前進した
D:(総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(総合戦略策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業を休止している新嵐山の再生に向けたグランドデザインの策定と施設整備の検討。 ・観光・物産の振興においては、地域一体となったブランド力の強さ、戦略がより一層必要となる。 <p>《今後の予測》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ビジョンの基づき、体系的、事業連動、公民連携しながら官民一体となった観光まちづくりを進めしていく。
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	<ul style="list-style-type: none"> ・新嵐山の再生にあたっては、その取組が町民の福祉の増進につながるよう進める必要がある →「あり方の骨格」で位置付けるとともに、今後のグランドデザイン策定においても町民の意見を聞きながら進める ・観光ビジョンの全町の共有が必要ではないか →関係団体とは共有をしているが、今後においても同様に、また事業を進めるにあたってしっかりと全町共有をしていく

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<ul style="list-style-type: none"> ・新嵐山の再生にあたっては、グランドデザインの策定とそれにあわせた施設整備が必要になるが、町の財源も限られており、施設整備にあたっては各種補助金・交付金等の活用や、民間活力の活用により、町の負担の軽減を図る必要がある。 ・観光ビジョンに基づき、観光まちづくりを進めるうえで、その運営母体となる観光関連全般を担える組織が必要。 ・ふるさと納税返礼品、特産品の造成による自主財源、地域の稼ぐ力の確保は必須で、生産者を含めた町内各産業、団体、組織とのさらなる強力な連携が必要。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	担当課評価と同様に、後退したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果					○
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A:実現した B:(総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C:(総合戦略策定時と比較して)前進した D:(総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(総合戦略策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に後退したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果					○
今後の取組に対する意見	特になし	A:実現した B:(総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C:(総合戦略策定時と比較して)前進した D:(総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(総合戦略策定時と比較して)後退した					